

家の光に できること

JA 組織基盤強化に果たす役割

今からおよそ100年前、第一次世界大戦後の経済不況の影響で農村は困窮し、JAの前身である産業組合も経営の危機に瀕していました。協同の理念を広めることで組合を立て直し、農家の生活を救うために、雑誌『家の光』は生まれました。

今日ふたたびJAは困難に直面しています。JAが組合員と地域社会のために発展し続けるには、揺らいでいる組織基盤の強化が必要です。『家の光』とともに原点に立ち返り、協同組合運動を進めていきましょう。



農家の暮らしと組合を救うために『家の光』は生まれました。



『家の光』創刊号



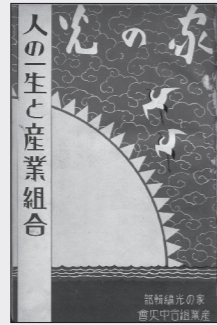
役割

『家の光』が担ってきたこと

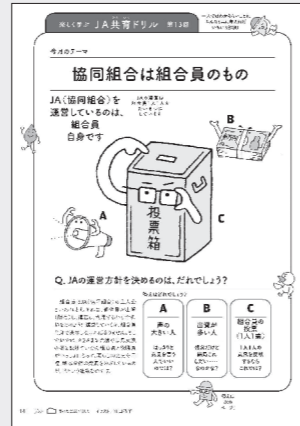
役割
1

“協同のたいせつさ”を広める

産業組合(JA)をより多くの人に利用してもらい、農家の生活をよくしていくためには、協同組合の理念や仕組みを広め、事業や活動内容を紹介する雑誌が必要でした。こうして誕生した『家の光』は、協同組合教育のための学習教材という側面を持っているのが特徴です。JAグループの中で『家の光』が担ってきたこの役割は、今日に至るまで続いています。



昭和5年の『家の光』臨時増刊号では、漫画をまじえて産業組合の事業を紹介した



令和の『家の光』にも、かならず協同組合学習の記事が掲載

役割
2

記事活用で暮らしを豊かに

『家の光』のもう一つの大きな特徴が、読書会や料理教室、家計簿記帳や生活設計(ライフプラン)講習など、記事を活用したさまざまな文化活動が展開されてきたことです。戦後になってからは、農協婦人部(JA女性組織)が記事活用の主体となって、農家の暮らしの向上に貢献してきました。

『家の光』の記事活用によって協同活動を体験することは、組合員としての自覚にもつながっています。現在、全国232JA4,439の家の光記事活用グループで8万9,220人が活動しています(2023年末)。



昭和35年ごろに開かれた家の光料理教室の様子



昭和42年、東京都調布市農協(現・JAマイズ)の読書会



課題

JAの“土台”が揺らいでいます

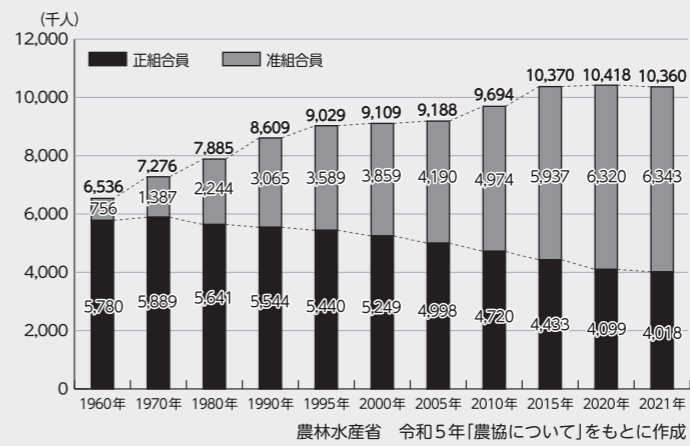
課題

組織基盤の弱体化が進んでいます

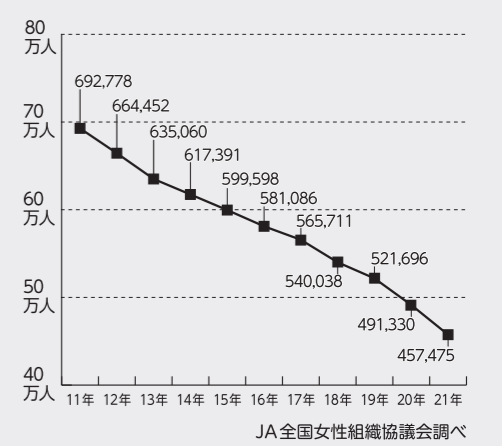
年々、正組合員数が減って2009年に初めて准組合員数と逆転。正・准あわせた組合員総数も2018年以降は減少に転じています。また、JAの活動を支えてきた女性組織のメンバー数も減少を続け、過去10年間でおよそ3割減っています。

一方でJAの統合が進み、2010年に715あったJAは10年間で584に。支店(所)数が減ったことなどにより、組合員との接点が減少し、関係性の希薄化が進んでいます。

◆正・准組合員数の推移



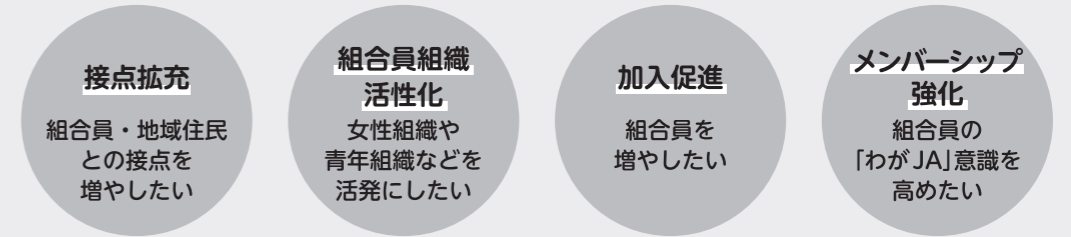
◆JA女性組織メンバー数の推移



対策

取り組まなければならないこと

JAが本来の協同組合らしさを取り戻すためには、組合員やその家族、将来の組合員候補である地域住民と密な関係性を築きながら、地域の中で活動の裾野を広げていく必要があります。さらに、組合員のJA運営への積極的な関わりとメンバーシップの発揮を促し、「自分たちのJAである」という意識を醸成していくことが求められます。



つまり…



読書によって協同の心を育み、
記事活用によって協同活動を体験する



組織基盤の強化が求められています

Q

『家の光』で
なにが
できるの？

A

『家の光』の普及と
活用によって組織基盤の
強化が進みます。

効果



組合員

JA 役職員

読書

記事活用

学習



記事を読むことで、協同組合の理念や
組織の仕組み、JAの事業・活動につい
て知ることができます

女性組織等による手芸・料理・園芸・
農産加工等のグループ活動を通して、
協同活動を実感できます

記事を通して知識や知見を深め、JA
とその事業について自分の言葉で組
合員に伝えることができます

JAのファンに

JAを拠り所に

対話がスムーズに



JAを利用する人が増える

JAに人が集まる

JAへの理解が深まる

JAと組合員の接点拡充

メンバ
シップ
強化

組合員組織
活性化

対話力
向上

『家の光』の普及と活用は、JAを地域の中でより身近な存在にし、支店への結集を促します。

JA事業の利用や協同活動への参加を後押しし、そのことを通じて組合員のメンバーシップを高め、

組織基盤強化に貢献します。